

DESA005 α 2 電話番号

ITU-T E.123 : Notation for national and international telephone numbers, e-mail addresses and web addresses 及び IETF RFC3966 The tel URI for Telephone Numbers、国内の普及状況を考慮して整理する。

1 電話番号

電話番号のデータは以下の形式とする。半角数字で記述し、セパレータには半角ハイフン「-」を利用する。

国際電話用に表現する場合には、「+」の後に国番号、半角スペース後に国内番号の先頭の0を除いた番号とする。国番号はITU-T E.164に従うこととする。

国内 09-9999-9999 または 099-999-9999 または 0999-99-9999
または 09999-9-9999
フリーダイヤルの場合 0120-999999

国際 +国番号 9-9999-9999 (国内番号が2桁4桁4桁の場合)

例) +81-3-5253-5111

代表電話番号を表したい場合、電話番号と同じセル内で、電話番号の後ろに(代表)等の追記を行わない。

データ項目名を「代表電話番号」「連絡先電話番号」として明確化するか、「電話番号」「部署」のように2つのデータ項目とする。

例) 03-5353-5111
代表電話

2 内線

電話番号と別データ項目で管理することが望ましい。半角数字のデータとする。

電話番号と同じ1つのデータ項目で記述する場合には、国際標準に従い以下のとおりとする。内線と番号の間にスペースは入れない。

国内 09-9999-9999 内線 999 (内線の桁数は自由)
国際 +国番号-9-9999-9999 Ext. 999 (内線の桁数は自由)

(国内番号が 2 桁 4 桁 4 桁の場合)

3 複数番号の併記

複数番号を併記する場合、半角“スペース/スペース”により区切ることに
より併記する。

09-9999-9999 / 09-9999-9999

内線も同様とする

4 解説

4.1 基本方針

ITU-T E.123 : Notation for national and international telephone numbers, e-mail addresses and web addresses 及び IETF RFC3966 The tel URI for Telephone Numbers、国内の普及状況を考慮して決定する。

4.2 セパレータ

以下の理由により電話番号の区切りに半角ハイフンを指定する

- ・市外局番の桁数に様々な場合があることから、数字の区切りは必要である。
- ・日本で市内局番を () で表現することがあるが、E.123 において () は、
場合によって使用しないという意味を表す記号であるため、国際的には誤
解を生む表現である。
- ・ITU-T E.123 は、番号の視認性を高めるための仕組みとして番号の区切
りにスペースを指定している。一方で、IETF RFC3966 はE.123 を認識した
うえで、スペースを使うべきではないとしている。スペースは意見が相反
しているうえ国内で普及していない。
- ・E.123 は、世界の状況を踏まえ「-」の使用を容認している。また、IETF も
セパレータの必要性は認めている。
- ・国内ではハイフンが主流であり、米国でも多くの場面で使われている。

4.3 内線

内線については以下の理由により、データ項目を分離することを推奨する。

- ・国内で内線の書き方は統一されたものがない。
- ・国外でも内線番号記述は統一されていない。
- ・データ处理的に容易である。

また、1つのデータ項目に内線を記述する場合、E. 123 に従い、国内で内線を番号表す単語“内線”の後ろに内線番号を記述する方式をとる。国際の場合には“Extension”では長いため、Ext. を使うこととする。

5 変更履歴

日付	位置	変更内容
2017-12-22	全体	セパレータをスペースからハイフンに変更
2017-12-22	P1	フリーダイヤルの追加